

当行（単体ベース）の営業の概況

2024年9月中間期の営業の概況（2024年4月1日～2024年9月30日）

当中間期のわが国経済は、設備投資や個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかに回復しました。地元香川県におきましても、企業の設備投資は増加し、個人消費では物価上昇の影響を受けつつも底堅く推移するなど、景気は緩やかに持ち直しました。

このような経済環境のなか、当中間期の業績等は次のとおりとなりました。

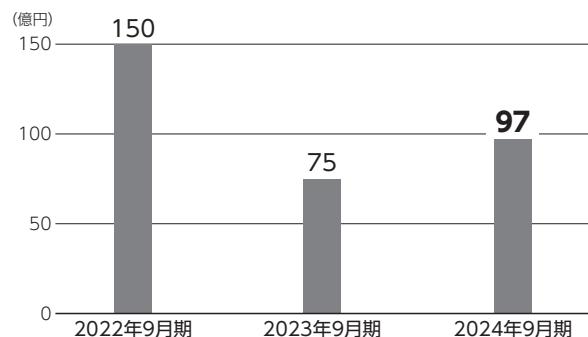
コア業務純益（除く投資信託解約損益）

コア業務純益（除く投資信託解約損益）*は、貸出金利息の増加による資金利益の増加や、外国為替売買益を含むその他業務利益**の増加などにより、前年同期比22億円増加して97億円となりました。

*コア業務純益（除く投資信託解約損益）とは

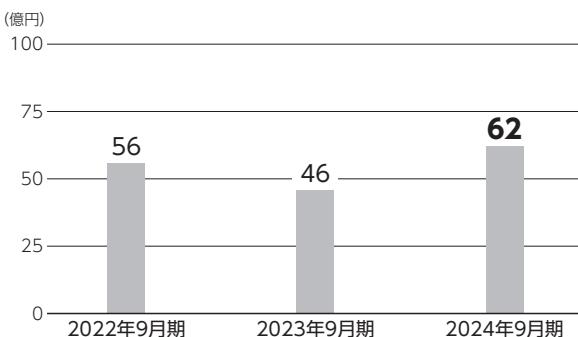
銀行の本来業務からの利益を表す指標

※債券関係損益を除く



中間純利益

中間純利益は、コア業務純益（除く投資信託解約損益）の増加や債券関係損益の改善などにより、前年同期比16億円増加して62億円となりました。

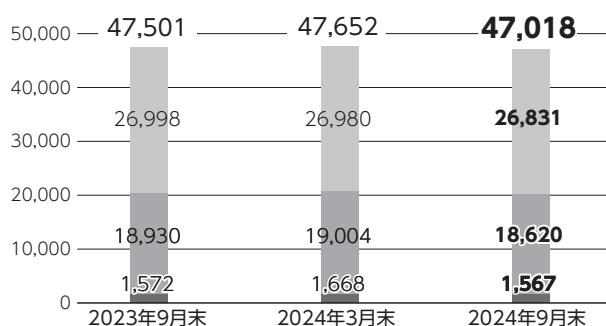


総預金・貸出金の残高推移

●総預金（預金+譲渡性預金）

当中間期末の総預金残高は、個人、法人及び公共預金がいずれも減少したことにより、前期末比633億円減少して4兆7,018億円となりました。

（億円） ■公共 ■法人 ■個人



●貸出金

当中間期末の貸出金残高は、公共向け貸出金は減少しましたが、法人向け及び個人向け貸出金が増加したことにより、前期末比274億円増加して3兆4,606億円となりました。

（億円） ■公共 ■法人 ■個人

